

# 日本語教育研究科 授業アンケートについて

日本語教育研究科教務委員 細川 英雄

1. 報告の目的と趣旨
2. アンケート実施の経緯
3. アンケート実施とその結果集計
4. 自由記述の項目について
5. 今後の方針と課題

## 1. 報告の目的と趣旨

本稿は、2002年度春学期に試行実施された早稲田大学大学院日本語教育研究科（以下、本研究科）での学生による授業アンケートについてその概要を報告するものである。

本研究科では、大学全体の自己点検・自己評価の流れのなかで、学生による授業評価について、その実施の実際を公開するとともに、今後に向けての教育研究の改善をめざすべくその概要を報告するものである。

2002年度春学期に実施した授業アンケートの目的と趣旨は、以下のとおりである。

1. 2002年度春学期の授業アンケートは、試行アンケートと位置づけ、アンケート対象授業は、専任教員担当の理論研究および実践研究とする。
2. アンケート結果の公開について、理論研究および実践研究の全体集計について行い、個別科目ごとの結果の公表および方法については授業担当者の意思を尊重する。その際、担当者からのコメントもあわせて掲載することを可能とする。
3. 2002年度秋学期についても試行アンケートとし、この結果を考慮して、2003年度春学期からの本格実施に備える。
4. この授業アンケートは、日本語教育研究科の自己点検・自己評価の一環として行うものであり、関係教員の勤務評定等には一切使用しないこととする。

## 2. アンケート実施の経緯

学生による授業評価は、本研究科開設当初より自己点検・自己評価の当面の課題として存在したが、研究科発足からはじまって、その運営等のすべてが未経験の出来事の連続であり、その中で開設当初よりこの授業評価を実施することはきわめて困難であった。

一方、授業が開始された第1年目を経て、2年目に入るところから、日々の教育研究に関する学生からのさまざまな研究科への要望がなされるようになり、これについては、主に教務担当の教務委員が窓口として対応してきた。その中で、2002年5月ごろより学生有志による授業評価の希望が出され、研究科委員会で審議の結果、研究科として学生との協議会を創設することになり、有志代表との話し合いを経て、2002年7月に日本語教育研究科教育研究問題連絡協議会が設置された。

その規定は次のとおりである。

#### 日本語教育研究科教育研究問題連絡協議会規程

##### 1. 名称

本協議会の名称を「日本語教育研究科教育研究問題連絡協議会」とする。

##### 2. 目的

本協議会は、日本語教育研究科における教育・研究について教員・学生相互の要望を集約し、互いに連絡を取り合うことによって教員と学生の連携を深め、将来的な課題にも資する議論の場を形成することを目的とする。

##### 3. 構成

本協議会の構成は、教員委員2名（内1名は教務委員とする）、学生委員若干名とする。学生委員は、各研究指導の連絡委員（正副2名）を当てることとし、必要に応じて代理の出席を認めることとする。なお、連絡委員代表を定め、代表は、連絡委員間の意見集約および調整等を行うこととする。

##### 4. 活動

本協議会教員委員は、日本語教育研究科における教育・研究に関して学生側からの意見を聴取しできるかぎり研究科運営に活かすことができるよう尽力する。学生委員は、それぞれの所属する研究指導の構成員の意思が反映されるようその意見の聴取・集約に努める。なお、教員・学生とも必要に応じて、本協議会準備のための会合を個別に持つことができる。

##### 5. 協議会の開催

本協議会は、特に定例の会合を予定しないが、教員委員または学生委員いずれかの発議により協議会を開催することができる。

##### 6. 委員間の連絡

本協議会の連絡は、全委員登録によるメーリングリストによって行う。

##### 7. 規程の改正

本協議会の規程は、教員委員または学生委員の発議により協議によって改正することができる。

##### 8. 規程の実施

本規程は、2002年7月25日に骨子を承認し、2002年9月26日の研究科委員会決定により実施される。

以上の連絡協議会のもと、2002年7月下旬の春学期終了時に実施されたものが、次に示す授業アンケートである。

アンケート項目
---------

授業アンケート 1

科目名 ( ) 理論研究 ・ 実践研究 (何れかに○をしてください)  
 科目担当者 ( ) 受講年度・学期 (2002) 年度 (春) 学期

無記名で行うこのアンケートの結果は、科目担当者に還元され、今後の授業へつながると思われま。また、受講者からの建設的な意見は、研究科の発展にもつながると考えられます。なお、このアンケートの結果は受講科目に関する成績には一切影響を及ぼしません。次の事項について当てはまる項目にチェックを入れてください。また、それぞれの項目に対する意見は、20.で自由に記述してください。

項 目	5 非常に そうだ	4 そうだ	3 どちら でもない	2 そう ではない	1 全然 そう ではない	0 わ か ら な い
1. (当研究科では、理論研究2単位・実践研究3単位という単位配分がされています。) この講義の内容は、その単位配分に見合ったものだった						
2. 講義は授業シラバス・オリエンテーションに則していた						
3. 講義内容／成績評価基準について明確な説明があった						
4. 科目担当者は、十分な準備をした上で講義に臨んでいた						
5. 講義中、科目担当者の説明は明確で理解しやすいものだった						
6. 科目担当者は受講者の課題や発表などに対し、有益なフィードバックを行った						
7. 科目担当者は受講者の主体性を引き出す環境を整えていた						
8. 科目担当者は受講者の意見・質問などに対して、誠実に応じていた						
9. 科目担当者は、受講者の研究姿勢(分析的・創造的な思考など)に影響を与えるような講義を行っていた						
10. 試験及び課題などには、講義内容が適切に反映されていた						
11. この科目を履修したことは、受講者自身の研究を深めるきっかけになった						
12. 使用された教材・教具(テキスト、レジュメ、視聴覚機器など)は、科目内容に関する研究・考察に役立った						
13. 私はこの講義を他の学生に推薦したいと思う						

授業アンケート 2

科目名 ( ) 理論研究 ・ 実践研究 (何れかに○をしてください)  
科目担当者 ( ) 受講年度・学期 (2002)年度 (春)学期

14. あなたはこの授業に対して自分から積極的に関わりましたか。

- 非常に積極的に関わった
- 積極的に関わった
- それほど積極的に関わらなかった
- 積極的に関わらなかった
- 全く積極的に関わらなかった

15. 講義時間外で費やした時間の質を自己評価してください。

- 非常に高く評価する
- 高く評価する
- それほど高く評価しない
- 低く評価する
- 非常に低く評価する

16. この科目を履修する際、講義時間外で費やした時間(試験/課題準備を含む)は、週平均何時間ぐらいでしたか。

- ①1時間以下 ②1-3時間 ③3-5時間 ④5-7時間 ⑤7時間以上

17. あなたの成績は自分で考えて、どのくらいだと思いますか。

AA A B C D F

18. 担当者に対して要望や改善を望む点がありますか。具体的に書いてください。

19. その他、この講義について自由に書いてください。

20. このアンケートについて(実施方法・項目など)ご意見があれば、自由に書いてください。

### 3. アンケート実施とその結果集計

#### 3-1 アンケートの実施

今回のアンケートは、試みとしての意味もあり、2002年度春学期においてはまず理論研究と実践研究の専任教員担当の科目に限定して行った。

アンケート実施は、各担当者の了解を得て、2002年度春学期の各授業の最終回に行われ、用紙の配布および回収は、連絡委員が担当した。

実施科目および提出状況は次のとおりである。

#### 3-2 アンケート実施および提出状況

科目分類	科目名 (専任教員担当分)	登録者数	アンケート1 提出者数	アンケート2 提出者数
理論	教材・教具論	40	36	36
理論	第二言語習得論	15	15	15
理論	文型・文法教育	36	29	29
理論	語彙・意味論	14	14	13
理論	文章・談話論	7	7	7
理論	待遇表現論	29	26	24
理論	言語文化研究	16	15	15
理論	対照言語研究	6	6	6
理論	日本語教授法 A	14 (+10)	21	19
理論	年少者日本語教育	19	19	19
実践	日本事情	12	12	12
実践	漢字	9	8	8
実践	聴解	16	16	14
実践	読解	9	9	6
実践	表現 (1)	18	18	17
実践	表現 (2)	16	14	13
実践	初級 (1)	16	16	16
実践	初級 (2)	7	7	6

	合計	309	288	275
	回答率		93%	89%

#### 3-3 アンケートの集計について

回収されたアンケートは、日本語教育研究科事務所において集計され、理論研究および実践研究の全体集計のほか、科目ごとの個別の集計も行われ、その結果については各担当者に周知された。

以下に、理論研究および実践研究の全体集計の結果を示す。

## 理論研究

	項目	5	4	3	2	1	0	回答数計
		非常に そうだ	そうだ	どちらで もない	そうで はない	全然そう ではない	わから ない	
1	この講義の内容は、その単位配分に見合ったものだった	33	45	9	6	0	3	96
2	講義は授業シラバス・オリエンテーションに即していた	41	41	7	4	0	2	95
3	講義内容／成績評価基準について明確な説明があった	32	48	10	4	0	1	95
4	科目担当者は、十分な準備をした上で講義に臨んでいた	42	37	9	2	1	2	93
5	講義中、科目担当者の説明は明確で理解しやすいものだった	41	41	10	2	0	1	95
6	科目担当者は受講者の課題や発表などに対し、有益なフィードバックを行った	34	42	13	6	0	1	96
7	科目担当者は受講者の主体性を引き出す環境を整えていた	41	39	11	4	1	0	96
8	科目担当者は受講者の意見・質問などに対して、誠実に応じていた	50	40	4	3	0	0	97
9	科目担当者は、受講者の研究姿勢に影響を与えるような講義を行っていた	39	36	13	4	1	1	94
10	試験及び課題などには、講義内容が適切に反映されていた	40	38	13	0	0	3	94
11	この科目を履修したことは、受講者自身の研究を深めるきっかけになった	40	36	14	4	1	1	96
12	使用された教材・教具は、科目内容に関する研究・考察に役立った	35	37	12	2	1	6	93
13	私はこの講義を他の学生に推薦したいと思う	42	37	12	2	2	2	97
14	あなたはこの授業に対して自分から積極的に関わりましたか	非常に 積極的	積極的	それほど積 極的でない	積極的 でない	全く積極的でない		
		26	56	7	0	0		89
15	講義時間外で費やした時間の質を自己評価してください	非常に高く 評価する	高く評価 する	それほど高く 評価しない	低く評価 する	非常に低く評価する		
		24	38	19	3	0		84
16	この科目を履修する際、講義時間外で費やした時間は、週平均何時間ぐらいでしたか	①1時間 以下	②1～3 時間	③3～5 時間	④5～7 時間	⑤7時間以上		
		14	39	16	10	6		85
17	あなたの成績は自分で考えて、どのくらいだと思いますか	AA	A	B	C	D	F	
		11	61	7	0	0	0	79

## 実践研究

	項目	5	4	3	2	1	0	回答数計
		非常に そうだ	そうだ	どちらで もない	そうで はない	全然そう ではない	わから ない	
1	この講義の内容は、その単位配分に見合ったものだった	54	103	12	7	0	8	184
2	講義は授業シラバス・オリエンテーションに即していた	63	102	13	6	0	1	185
3	講義内容／成績評価基準について明確な説明があった	73	82	21	4	1	2	183
4	科目担当者は、十分な準備をした上で講義に臨んでいた	76	80	15	5	2	1	179
5	講義中、科目担当者の説明は明確で理解しやすいものだった	74	94	15	0	2	0	185
6	科目担当者は受講者の課題や発表などに対し、有益なフィードバックを行った	70	84	24	3	2	0	183
7	科目担当者は受講者の主体性を引き出す環境を整えていた	64	80	30	5	1	1	181
8	科目担当者は受講者の意見・質問などに対して、誠実に応じていた	104	67	10	3	1	0	185
9	科目担当者は、受講者の研究姿勢に影響を与えるような講義を行っていた	76	78	21	4	3	3	185
10	試験及び課題などには、講義内容が適切に反映されていた	84	88	9	0	2	0	183
11	この科目を履修したことは、受講者自身の研究を深めるきっかけになった	78	76	22	6	2	1	185
12	使用された教材・教具は、科目内容に関する研究・考察に役立った	65	84	27	7	1	1	185
13	私はこの講義を他の学生に推薦したいと思う	75	80	22	2	2	4	185
14	あなたはこの授業に対して自分から積極的に関わりましたか	非常に 積極的	積極的	それほど積 極的でない	積極的 でない	全く積極的でない		
		24	114	37	4	0		179
15	講義時間外で費やした時間の質を自己評価してください	非常に高く 評価する	高く評価 する	それほど高く 評価しない	低く評価 する	非常に低く評価する		
		20	94	54	3	3		174
16	この科目を履修する際、講義時間外で費やした時間は、週平均何時間ぐらいでしたか	①1時間 以下	②1～3 時間	③3～5 時間	④5～7 時間	⑤7時間以上		
		48	72	30	15	12		177
17	あなたの成績は自分で考えて、どのくらいだと思いますか	AA	A	B	C	D	F	
		17	110	32	3	0	0	162

### 3-4 アンケート結果の公開について

アンケート集計結果の公開については、理論研究と実践研究を一括して公開するという前提で行い、科目ごとの個別集計結果の公開については、2002年度は授業担当者の希望によることとした。その際、担当者からのコメントをあわせて記述することができるとした。科目別集計結果の公開を行っているのは、2003年1月段階で理論研究「待遇表現研究」「言語文化研究」、実践研究「表現(1)」「日本事情」の4科目である。

### 4. 自由記述の項目について

項目20については、このアンケートの意義を含む、さまざまな意見を集約するため、自由記述とした。ここでは、この趣旨に基づき、すべての意見を項目ごとに集約して列挙してある。

20. このアンケートについて（実施方法・項目など）ご意見があれば、自由に書いてください。

意見の分類	件数	具体的記述
趣旨に反対	2	アンケートの趣旨に賛成しかねますので記入いたしません。
全科目に対して実施してほしい	4	全科目に対して実施してほしい。 非常勤の評価も。 非常勤のアンケートこそ実施すべき。 非常勤講師に対しても実施してほしい。
フィードバックしてほしい	5	公開という形だけでなく、フィードバックをきちっとしてほしい。研究科の授業アンケートへの見解など。 このアンケートが授業評価アンケート実施の趣旨を反映するべくフィードバックを求めたい。単に公開するだけでなく研究科としての見解なども求めたい。 毎回書くのはいいが、必ずフィードバック書いた人には（公開）してほしい。 このアンケートは反映できるのでしょうか。 この授業に対するアンケートだけでなく全体的にアンケートの結果から授業がいい方向に流れたらいいな、と思います。
公開してほしい	2	どのように公開するのか？書く側の負担を考えると必ず公開してほしい。 公開性なら書いた私たちに公開してほしい。

意見の分類	件数	具体的記述
実施時間の工夫が必要	3	黒板に書く時間、説明等に時間がかかりすぎ、模造紙などに書いておいて貼るだけにするなどの工夫が望まれる。
		貴重な講義時間を15分削るのは惜しかった。
		今日担当の先生だけのせいではないが、時間内にアンケートが行われなかった。
実施時期の問題	2	タームの最後のアンケートも然り。あるいはターム半ばで要望あるいは講義内容についての質問アンケートなどもあってよいのでは？
		評価回収の後、2期後に担当者に渡す、などの方法を採用のどうか（UCLAで採択済）。
集計方法疑問	1	集計する人は誰か？手書き形式だと意見が出にくいかもしれない。
匿名性でなく実名で回答すべき	1	匿名性でなく実名公開すべき
項目については書きやすい	1	項目については書きやすい
項目の検討が必要	6	項目は検討の必要があると思う。
		アンケート項目の検討要。
		答えにくい項目が多すぎ。どうしてあれほどいろいろな意見があったのに、改善されていないのか。
		すべての授業をこの項目で書くのは難しいように思いました。
		もっと項目を増やしてもいいと思う。
項目はおおまかでよい。		
アンケート1の項目が細かすぎ、作成者の意図が感じられる	4	アンケート1の項目は細かすぎ、かつ「こういう授業をすべきだ」という意図が感じられる。もっと大まかな項目でよいと思うので未記入とする。
		アンケート1のように細かく分ける必要はなく、大雑把な感想で十分だと思うので、この項目は未記入とする。あまり細かく書くとあたかも「こういう講義をせよ」といっているようで不適當だと思う。
		アンケート1でのアンケートには同意できないので未記入とする。項目が細かすぎ、かつ「こういう講義をすべきだ」という作成者の意図が感じられるからだ。
		アンケート1の本形式での実施は反対。項目が細かすぎる。よって記入はしない。院生内でメールがまわったとき、意見を書いたが受け入れられなかった。いずれも「こういう講義をすべきだ」という押し付けが感じられる。

意見の分類	件数	具体的記述
アンケート1に自由記述欄があるとよい	2	1 ページ目欄外に、備考欄的なスペースがあって、簡単に書き込めるとよいと思います。 アンケート1にも自由記述の欄があっても良いのではないかと思う。例えば項目2に「2」を付けましたが、それはこの授業で開始後に加わった見学プログラムを指して、「シラバス通りではなかった」が「とてもよかった」とするもので、そのような意図も「もしあれば」という形で盛り込めればよいと思います。
アンケート1の選択肢「わからない」は不要	2	いいと思いますが、アンケート1. は項目に「わからない」を入れないほうが良かったと思います。 アンケート1の項目の「わからない」はなくしたほうがよいと思います。
項目(1) 説明不足	1	アンケート1-1はもう少し詳しく質問した方がよいと思います。
項目(3) 質問があいまい	1	3. 講義内容と成績評価基準はまったく別々のものなので同一項目として評価できません。
項目(5)(9) 実践研究にはなじまない	2	実践研究についてはアンケート項目の内容がふさわしくないとと思われる。(5、9など) 特に自律学習を推進する場合は評価のしようがない。 項目9：実践研究なので「講義をおこなっていた」というのは難しい。
項目(9)(11)(12) 答えにくい	4	項目9、11は答えにくい。自分の研究テーマとは直接関係がないが、“教育”という視点では得るものがあったので。 9. と11. の質問の違いがわからない。 項目11：研究を深めるきっかけにはならなかったかもしれないが、自分がいる日本語教育という場での“教える”ということについて考えさせられたので、答えるのが難しかった。 (12. に対して) 答えられません。教材・教具を否定しておられるので。
項目(9)(11)(12) 不要	1	人に何かを与えてもらうという姿勢は好ましくない。特に9、11、12の項目は不要。
アンケート2の質問の意味不明	1	アンケート2は全体的質問が何の意味をもっているのかわからない。
項目(14)(15)の選択肢をアンケート1と同じにしたらどうか	2	アンケート1. とアンケート2. で選択肢の数が同一でない。つまり、アンケート2の14、15には、「どちらでもない」、「わからない」、がない。 14、15の間もアンケート1のマトリックスと同じように「0、1、2、3、4、5」にしたほうがよいのでは。14、15には「どちらでもない」(中立)、「わからない」(不明)がないのですが…。

意見の分類	件数	具体的記述
項目 (15) (16) (17) について質問の意味がわからない。答えにくい。	11	15. の質問の意味がわからない。
		15番の意味がわかりません。
		15は「学生が」という意味ですか？意味がよくわかりません。
		15は質問の意味がわかりません。
		授業時間外で費やした時間、という項目 (15) は内容によっても違ってくると思うのでアンケート項目としての妥当性はどんなものか。
		(15を指して) 各講義の内容の違いにもよるので自己評価できません。
		(15、16、17を指して) 質問の意味不明
		15、16、17の意味がわからない。
		15、16の項目は答えにくい。
		(16を指して) 課題はまだやっていないのでわからない。
(17を指して) まだレポートを書き終えていないのでわからない。		
項目 (14) (15) (16) (17) について自己評価の必要性に疑問	7	15、16、17. はなぜこの項目が必要なかわからない。
		(14、15、16、17を指して) なぜ自己評価が必要かわからないので未記入とする。
		17の成績の自己評価は無意味では？
		成績の自己評価は少しおかしいと思います。
		なぜ自己評価が必要なかわからない。
		なぜ自己評価が必要なかわからない。
		15、学生について時間をどのように使ったかどうかというよりも教師についてのアンケートを採るべきだと思った。意味がわかりにくい、再考察せよ。担当者へ (このアンケート作った者へ)
項目 (16) の時間区分	1	16. の項目、1～3時間では幅がありすぎないか。
自由記述は必要	1	自由記述の部分は必要だと思う。
(18) の質問の書き方に疑問	3	(18を指して) これだと不満しか出ないかもしれないのでこの項目は不要だと思う。
		(18. に対して) このような書き方では不満ばかりが出かねない。項目19のみで十分だ。
		(18を指して) このような書き方だと不満ばかりになりかねない。良かった点も十分かけるようにしたい。
全体を肯定	4	がんばって下さい。
		方法はこれでいいと思う。
		良いと思う。
		ごくろうさます。

意見の分類	件数	具体的記述
アンケート2 提出者数	275	
項目（20）未回答、あるいは「特になし」と回答	225	
項目（20）に回答	50	

## 5. 今後の方針と課題

以上が、2002年度春学期における授業アンケートの概要である。

これに基づき、2002年度秋学期にも引き続き、試行アンケートを行い、2003年度春学期より本格的な授業評価を導入することとなる。

これにともない、2002年度秋学期には、次の項目を確認することとする。

1. 2002年度秋学期のアンケートは試行第2回目とし、専任教員担当の理論研究および実践研究とする。
2. アンケート項目は、2002年度秋学期の結果を考慮の上、2003年度春学期へ向けて調整を行う。
3. アンケート実施時期は、原則として各授業の最終回とし、連絡委員がアンケート回収を行うが、授業担当者が他の時期を希望する場合は、これに従う。
4. アンケート結果の公開について、理論研究および実践研究の全体集計については2002年度春学期に準じ、個別の結果については授業担当者の意思を尊重する。その際、担当者からのコメントもあわせて掲載することは、従来通りとする。
5. 2003年度春学期からのアンケート対象授業を、非常勤担当科目を含む、すべての理論研究および実践研究に拡大するが、実施時期および公開方法等については、2002年度秋学期の結果を考慮した上で決定する。

2003年度春学期からの本格実施には、非常勤各位をはじめ、多くの方々のご理解・ご協力が必須である。本研究科のよりよい教育研究とその改善のために一層のご支援・ご協力を願う次第である。

付記：本稿は、日本語教育研究科委員会での議論を踏まえて、教務委員（細川英雄）が執筆し、草稿を研究科演習担当者全員が確認した上で、原稿化したものである。連絡協議会連絡委員の学生諸君にも、さまざまな形で協力を得た。記して謝意を表すものである。